

弥彦観光業の変遷について

～通過型から滞在型観光地に向けて～

新潟薬科大学応用生命学部生命産業創造学科
内藤あかり，平石賀子

越後一宮である彌彦神社は古くから参拝客を始めとして多くの観光客を集めてきた。ここ数年に限ると、観光客は女性比率の増加傾向が目立ち、観光の楽しみ方も以前とは大きく変わってきている。本論では、弥彦観光業の変遷について概観した後、「通過型」から「滞在型」観光地を目指してきた弥彦観光業界の取り組みとその成果について分析を行う。

キーワード：彌彦神社、通過型観光、滞在型観光、若者、Instagram

【1】緒言

新潟県の西蒲原郡に位置する弥彦村は、歴史ある弥彦神社を始め、弥彦温泉、弥彦山など多くの観光資源に恵まれている。

かつては、越後一宮である彌彦神社への「信仰目的」の観光が目立ったが、その後、自動車の普及とともに、「観光目的」の観光客も増加していった。その結果、彌彦神社だけに立ち寄り、寺泊や燕三条と併せて観光するような観光パターンが増え、弥彦の滞在時間はわずかなものになっていった。

しかし、2018年、弥彦グランドホテル跡地に「おもてなし広場」がオープンしたことが一つの大きな転機となり、彌彦神社周辺は周遊性のあるエリアへと変貌していく。弥彦村観光協会事務局長・三富克是氏が、「感覚的に、観光客の男女比は、女性：男性＝3：1で若い女性が増えてきており、平日の昼間には特に女性客が多い」と語るように、弥彦観光の客層や行動形式がかつてとは大きく変わっている。

本稿では、文献調査と弥彦村観光協会の事務局長である三富克是氏や弥彦村役場などへのインタビューをもとに、弥彦村の観光業がどのように活性化していったのかを明らかにするとともに、課題と今後の展望について考察する。

【2】弥彦観光の繁栄と衰退

弥彦は、越後一宮である彌彦神社の鳥居町として発展した。彌彦神社は創建から2400年以上もの歴史があり、日本最古の万葉集にも歌われる神社である。彌彦神社の神様である天香山命(あめのかごやまのみこと)は、越後の地に稲作を広めたとされている。

100年以上前は稲作農家が彌彦神社に、田植え前

と後に豊作祈願を、収穫後に収穫を感謝しにお米を奉納するというように、各地域から多くの稲作農家が年に3回訪れていた。稲作農家は彌彦神社へ参拝するだけでなく、彌彦神社周辺の旅館、お土産屋や飲食店を楽しみ、お金を使っていた。また、江戸時代以降は、北陸道、三国街道、会津街道などが整

表2 彌彦参拝や弥彦観光の変遷

江戸・明治初期	稲作農家による彌彦神社への参拝など。
明治以降	近隣からの参拝客の増加。
関越・北陸自動車道開通(1978年)	全国からの観光客が増加。1985年前後に年間285万人でピークに。
自動車の普及	弥彦は観光の通過点の一つとなり、宿泊客の減少が続く。滞在時間を増やすことが課題に。
弥彦浪漫化計画がスタート(2005年)	「歩いて楽しいまちづくり」のまちづくり活動。観光協会のパンフレットやホームページの大規模なリニューアル。弥彦ブランドの商品開発。
御日供祭(彌彦神社、2013年)	一般の参加も可能に。
おもてなし広場の開業(2018年)	農産物直売場、フードコートつまど、なごみや、喫茶 花うさぎ、チャレンジショップききょう、源泉かけ流しの足湯、農作物加工施設などの複合商業施設。
弥彦駅前広場の整備(2018年～)	足湯「湯のわ」など。

(出所：各種資料・ヒアリングから筆者作成)

備され、明治以降、鉄道網などの発達で彌彦神社の参拝客が増えていった¹。

かつて彌彦神社に訪れる参拝客は、「観光目的」ではなく「信仰目的」がほとんどであった。例えば、最後の瞽女と言われた小林ハル氏の伝記にも、当時の人々が如何に彌彦神社への参拝を大切にしていたかがたびたび描かれている²。

1978年の関越・北陸自動車道開通をきっかけに、全国各地から多くの観光客が彌彦を訪れ、1985年前後には、年間285万人もの観光客が彌彦を訪れていた。当時の観光客の多くは、バスツアーで訪れていたため、彌彦神社を訪れたあと、彌彦温泉や飲食店などを利用し、お金を使っていた。しかし、県外から訪れる観光客の多くは、彌彦神社への「信仰目的」ではなく、「観光目的」であったため、信仰目的で訪れる人と、観光目的で訪れる人の間に差異が生じていた。その後、観光地としてのPR不足などもあり、徐々に観光客は減少していった。

図2 北陸自動車道開通の効果



(出所:「新潟県内の北陸自動車道 - 40年のあゆみ」NEXCO 東日本³.)

理由の一つとして考えられるのが、自家用車の普及である。バスツアーが減少したことから、観光客は彌彦には彌彦神社のみで、岩村、寺泊や燕三条と併せて観光するようになったため、彌彦に長時間滞在する観光客は減少した。とりわけ深刻だったのが、

彌彦・観音温泉街の宿泊数の減少であり、ピーク時の半分までの落ち込みとなった。

[3] 通過型観光地からの脱却を目指して

このように彌彦観光が「通過型」になり、滞在時間も30分程度になったことに対し、彌彦観光関係者が対策を打ち出す。2005年に、彌彦浪漫化計画がスタートし、特に、まちづくり活動のなかでは「歩いて楽しいまちづくり」が重視された。ゆっくり散策できる沿道や店舗前の手作りベンチの設置、自販機に木枠を被せる修景作業などを始め、昼と夜のウォークラリーなどが企画された。これと同時に、彌彦浪漫化計画に合わせ、観光パンフレットと観光協会ホームページを大規模にリニューアルした。

さらに、彌彦の魅力アピールするために、景観にとどまらず、土産品・特産品などの販売力強化を目的として地域ブランド「彌彦浪漫」が立ち上げられた。第1弾オリジナル商品として、彌彦の四季をモチーフにデザインされた「ハンカチ」、「手拭い」、「足袋ソックス」、「一筆箋」が用意された。オリジナル商品としては期間限定で発売された「おでん缶」、「地酒」、「カレンダー」、「うちわ」などが商品開発された⁴。

彌彦神社についても新たな試みが始まった。彌彦神社をお参りするを「観光」として位置づけられないかと考え、旅館の人達为中心となり、2013年に「御日供祭(おにつくさい)」を立ち上げた。御日供祭は元々、大神様に米・酒・塩などのお供えをし、皇室の弥栄と国の繁栄、皆様の家内安全などを祈念するお祭りであり、一般の方は参加することが出来なかった。また、彌彦神社にある「火の玉石」などパワースポットの名所として発信していくために、パンフレットや観光協会のホームページの充実を進めた。

[4] 周遊性を高めた「おもてなし広場」

しかし、彌彦観光を大きく変えるきっかけとなったのが、2018年に開業した「おもてなし広場」という複合商業施設である。この広場には開業前に、彌彦グランドホテルがあった。彌彦駅から近いという好立地にあることから昔は多くの観光客が宿泊していた。だが、観光形態の変化により宿泊客が減少し、2014年をもって閉館した。

おもてなし広場の総事業費は約3億4100万円で、そのうち1億7000万円が地方創成加速化交付金と地方創成拠点整備交付金であり、彌彦観光協会が管理・運営を行っている。

彌彦駅前でもやひこ観光ホテルが2017年に解体が完了し、駅前広場には足湯「湯のわ」などが整備された。同ホテルは1999年に倒産後、放置され、荒れ放題となり、駅前の景観を悪くしていた。解体事業費は1億3400万円となり、4536万円を国の社会

¹ 彌彦神社編 (2003年)『彌彦神社』学生社。

² 桐生静次 (2020年)『最後の瞽女』文芸社。

³ 2023年3月12日閲覧. report01.pdf
(e-nexco.co.jp)

⁴ 「新潟県彌彦村/住みよい街が行きたい街~彌彦浪漫化計画の軌跡~」全国町村会 HP 2023年3月12日閲覧。

<https://www.zck.or.jp/site/forum/1100.html>

資本整備総合交付金で、6804万円を弥彦村が負担した。

複合商業施設であるおもてなし広場は、2017年に農産物直売場が先駆けてオープンすると、2018年の開業時には、讃岐うどんなどを提供する「フードコートつまど」、寺泊「さかたや」が運営する串焼き屋「なごみや」、「喫茶 花うさぎ」、「チャレンジショップききょう」、「源泉かけ流しの足湯」、「農作物加工施設」が揃えられていた。

おもてなし広場は、新たな弥彦観光の魅力を生み出す観光スポットや周遊観光の拠点、地域のにぎわいの創出と地元のさまざまな期待が詰まって開業された。

おもてなし広場は図4のように弥彦駅と彌彦神社の間に位置し、弥彦観光にとって「歩いて楽しいまちづくり」を加速させる施設となった。おもてなし広場のテナントはその後、状況に応じた入れ替わりがあった。現在は、「CREPESHOP 3o'clockのクレープ」や「SWEETSSHOP 3o'clockのフルーツサンド」や「うめもと屋のクリームソーダ」のスイーツを販売する店舗があり、見た目が可愛らしくインスタ映えするため沢山の若い女性観光客が訪れるようになった。

また、おもてなし広場のフードコート内の「うさぎや」は広域連携として弥彦村と交流がある香川県琴平町で学んだ製法で作る本格讃岐うどんを食べるこ

写真 4-1 おもてなし広場



(出所：弥彦観光協会 HP)

図 4 弥彦まちあるきマップ



(出所：弥彦観光協会 HP)

写真 4-2 うめもと屋のクリームソーダ



(出所：筆者撮影)

写真 4-3 CREPESHOP 3o'clockのクレープ



(出所：筆者撮影)

写真 4-3 SWEETSSHOP 3o'clockのフルーツサンド



(出所：弥彦観光協会 HP)

とができ、つゆは弥彦村と交流のある粟島浦村焼きアゴダシを使用している。

食事以外でも、源泉掛け流しのアルカリ性単純温泉の足湯は刺激が少なく、お年寄りや赤ちゃん、妊婦さんも安心して楽しむことができる。足湯は弥彦駅前広場「湯のわ」、弥彦神社前の四季の宿みのや「足湯」と複数箇所あり、足湯巡りできることも女性客を集めるのに貢献していると思われる。

足湯のほかにも、浴衣でまちあるきする、「やひこ

浴衣でまちあるき」が開催されており、リピーターを飽きさせないイベントや行事の拡充も進んでいる。

年々整備されているおもてなし広場は平日でも沢山の人が訪れるようになり、休日では家族連れで賑わっている。観光客の年齢層や弥彦の楽しみ方が変化したことで活気ある観光地になった。

【5】充実を増す目玉店舗と新コンテンツ

「おもてなし広場」のスイーツはインスタグラムなどで拡散され、さらに観光客を呼び込む「正の循環」をひき起こしているが、「おもてなし広場」以外でも弥彦観光のキラーコンテンツとなるスイーツが充実してきている。

【5-1】分水堂菓子舗のパンダ焼き

その一つが分水堂菓子舗のパンダ焼きである。2010年に池袋サンシャインシティで開催された「第1回日本全国ご当地おやつランキング」への出店に誘われて参加した。そこで、「白パンダ焼き弥彦むすめ(枝豆)餡」を会場で販売したら、3日間の会期中行列が絶えなかった。そして、グランプリ受賞を頂いた。グランプリを頂いた翌日から、注目されるようになり、人気になっていった。現在でも、弥彦と言えば「パンダ焼き」というぐらい多くの方に認知されている商品である。

写真 5-2 分水堂菓子舗パンダ焼き



(出所：筆者撮影)

「分水堂菓子舗」は弥彦駅の近くにあり、パンダ焼きを販売している店舗である。白いもちもちとした生地にカスタードクリーム、つぶやんを包んだパンダ焼きである。中でも一番人気なのが、弥彦名物「弥彦むすめ」という全国的にも希少な超早出し枝豆を使った餡のパンダ焼きである。また、パンダ焼きには日替わりや季節限定など多彩なバリエーションがあるのでいつ来ても楽しむことができる。

弥彦むすめは一束千円弱という値段であり、家庭で気軽に食べられる枝豆ではなかった。そのため、弥彦むすめの消費は年々落ち込んでいった。消費の減少に歯止めをかけようと、弥彦村商工会の方が分水堂菓子舗さんに弥彦むすめを使用した商品を作ることではできないかと提案があった。そこで、枝豆餡のパンダ焼きを販売した。しかし、最初は枝豆餡のパンダ焼きであることからお客様には高評価を頂く

ことは出来なかった。

【5-2】鎌倉・弥彦神社店のわらびもちドリンク

おもてなし広場の開業は、新規顧客獲得に貢献しただけでなく、優良な店舗誘致にも貢献しているようだ。その代表格が弥彦神社前に店舗を構える甘味処鎌倉・弥彦神社店である。

甘味処鎌倉は新潟市東区に本社を構え、全国の著名観光地を中心に36店舗を展開しており(2022年7月時点)、メディアにも頻繁に取り上げられている。

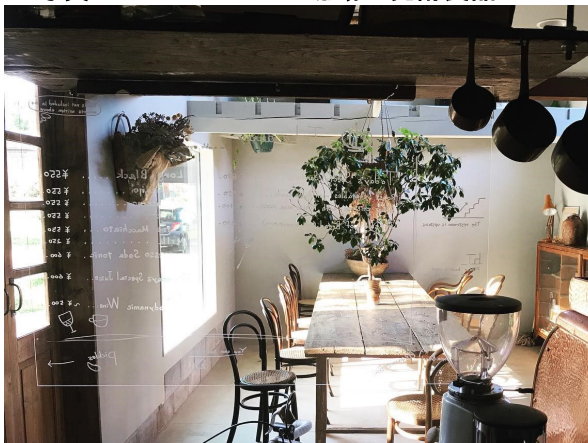
写真 5-2 甘味処鎌倉のわらびもちドリンク



(出所：同社HP)

それ以外にも、若者に人気になっているのが2019年にオープンしたカフェ「binn」である。樹齢300年以上のケヤキが目目をひく上諏訪神社の傍にあり、珈琲と発酵食品をコンセプトにしたリノベーションしたお洒落な店構えが人気である。

写真 5-3 コンセプトが珈琲と発酵食品の binn



(出所：同社Instagram)

【5-3】野外を楽しむコンテンツの充実

弥彦観光のピークが秋の紅葉の季節や菊祭りであるように、弥彦は自然に恵まれており、弥彦山登山やロープウェイを楽しむ観光客も多い。ロープウェイ山麓駅から山頂駅までの1,000メートルを運行し

ているロープウェイは、越後平野とその奥に連なる越後の山々を望むことができ、晴れた日は山頂から佐渡ヶ島を一望することができる。ロープウェイではガイドの説明もあり、より一層楽しむことができる。また、ロープウェイの道中には、春は桜、夏は紫陽花、秋は紅葉、冬は雪景色と四季を味わうことができる。

こうした自然を生かした観光客向けコンテンツの拡充も進んでいる。2022年9月にオープンした「やひこYY PARK」は、弥彦山の麓に誕生したグランピング施設である。グランピング施設は新型コロナウイルスが流行して「3密」を避けて楽しめるアウトドアアクティビティとして人気に火がついた。キャンプ経験がない人でも豊富な設備や用具が完備されているので、ゆったり過ごせるプライベート空間を味わうことができる。このことから、弥彦村にはグランピング施設がないことに目を付け、ターゲットはファミリー層や若者とした。弥彦村を訪れる目的の一つになればと考えた。また、建物内にあるのは広々とした着衣サウナ、プールが完備されているので「ととのう」ことも可能である。以上のように、グランピング×サウナといった近年人気のものを取り入れた新しい施設である。

図 5-1 弥彦の年間観光客数推移



(出所: 弥彦村役場 HP「弥彦村第6次総合計画 案」)

図 5-2 弥彦の年間宿泊客数推移



(出所: 弥彦村役場 HP「弥彦村第6次総合計画 案」)

2022年10月にオープンした「59FU」という古民

家カフェは広さ約2000坪ある店舗である。スイーツとコーヒーを味わえることができる。緑が広がる庭園の路地を進め、店舗に入ると和モダンな空間が広がっている。席に着けば、弥彦村の自然を望むことができる絶好のロケーションである。カフェ巡りが好きな人をはじめあらゆる年代の方が楽しめる店舗である。

弥彦村に新しく加わった施設が弥彦村の観光客をさらに増加させていく一つになると考える。図5-1、5-2は年間観光客数、宿泊客数であるが、年間観光客数は減少傾向に歯止めがかかっており、上昇の気配すらある。これらの施策やコンテンツの充実が貢献しているのは間違いなさそうである。

【6】満足度調査について

新潟県内の観光地・温泉地を訪れた観光客に対して、季節ごとにアンケート調査を実施した、第9回新潟県観光地満足度調査報告書⁵がある。その中でも、温泉地等別の項目別満足度と総合満足度について述べる。

8項目の満足度評価がある。①温泉街や周辺の景観・雰囲気 ②観光・文化施設 ③食事 ④買い物(土産品) ⑤地域のおもてなし(宿泊施設以外) ⑥観光パンフレットなどの充実度 ⑦案内看板・サイン表示の充実度 ⑧宿泊施設についての項目がある。弥彦温泉は8項目の満足度がある中で、7項目が上位5位内に入る高順位をとっている。

①温泉街や周辺の景観・雰囲気は1位である。宿泊客が参拝するために彌彦神社に訪れることや春夏秋冬楽しむことができる弥彦公園があることが高評価となったと考える。また、駅前の景観を悪くしていたやひこ観光ホテルの取り壊しや、弥彦浪漫化計画などの地道な取り組みが評価された影響も小さくないと思われる。②観光・文化施設も1位である。2400年以上の歴史がある彌彦神社に観光目的に訪れる方が多いので高評価となったと考える。④買い物(土産品)も1位である。おもてなし広場や彌彦神社周辺の店舗が充実しているので、あらゆる年代の方が訪れても楽しむことができるので高評価となったと考える。⑤地域のおもてなし(宿泊施設以外)は2位であった。だが、1位は佐渡の両津地域で、新潟地域では弥彦が一番良い順位であった。おもてなし広場の効果が大きいと考える。⑥観光パンフレットなどの充実度は1位である。弥彦観光の現状打破で述べてるように、パンフレットをリニューアルした効果が大きいと考える。⑦案内看板・サイン表示の充実度は1位である。弥彦村には大きな町歩きマップがあるので、観光客は迷わず観光できるので、高評価を頂くことができたのではないかと考える。⑧宿泊施設は2位である。弥彦温泉宿は11宿あり、その中でも「四季の宿 みのや」は歴史が長い老舗旅館であり、料理が美味しいことでも有名である。

⁵ 新潟県観光地満足度調査報告書(2021).

【7】 総括

弥彦村は、歴史あふれる弥彦神社を始めとした魅力的な観光スポットが多くあり、複合商業施設のおもてなし広場ができたことから子供から大人まで楽しめるようになった。また、町歩きをしてもらうために、まちあるきマップや案内看板が充実しているので迷わず楽しむことができる。

特に、若い人が訪れることで、インスタグラムで弥彦を発信してくれる効果は大きい。今後は、弥彦の魅力をまだ知らない人に知ってもらうことが弥彦の観光客を増加していく近道になるのではないかと考える。

【謝辞】 ヒアリング・取材でお世話になった弥彦観光協会事務局長・三富克是氏、弥彦村役場・産業部観光商工課、関係者各位のご協力・ご理解に謝意を表します。